



簡易取扱説明書

携帯型デジタル簡易無線機 IC-DPR45

この無線機をご使用の際には、総務省総合通信局への無線局の登録申請が必要です。
必ず登録申請をして、登録状が手元に届いてからご使用ください。
無線局の登録申請手続きをしないで運用されますと、不法無線局となり1年以下の懲役又は100万円以下の罰金に処せられますのでご注意ください。

Icom Inc.



はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
本製品は、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた登録局対応の携帯型デジタル簡易無線機です。

ご使用前に、取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

本製品の特長

- ◎ IP67^{★1}の性能に対応できるように設計されています。(バッテリーパック、アンテナ、保護カバー装着時に限る)
- ◎ デジタル無線機の特長として、高音質で通話ができます。
- ◎ サブチャンネルPTT機能搭載により、最大3チャンネル間で送受信ができます。
- ◎ チャンネル番号音声案内機能を使用すると、選択した通話チャンネル番号を音声で読み上げます。
- ◎ Bluetooth機能搭載により、VS-3(別売品)などのBluetoothヘッドセットを使用できます。
- ◎ ポケットビープメロディー機能を使用すると、ビープ音の代わりに、メロディーで通知できます。
- ◎ あらかじめ設定した複数のチャンネルを巡回受信できるメモリーチャンネルスキャン機能を装備しています。
- ◎ 個別呼び出し機能を使用しない場合、種別コード「3R」、「3T」の他社製デジタル簡易無線機と通話互換^{★2}があります。
- ◎ イコライザー機能を使用すると、好みの音質にできます。

★1 「IP表記について」(P.vii)をご覧ください。

★2 AMBE+2TM方式を採用している機種に対応しています。

使用後はリサイクルへ



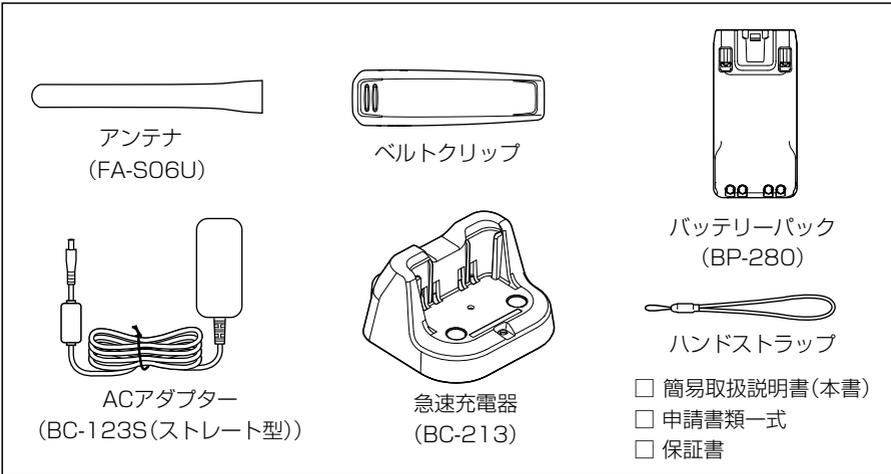
この製品は充電式電池使用機器です。

希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、端子部分をテープで絶縁し、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

充電式電池リサイクル協力店については、一般社団法人 JBRCのホームページでご確認ください。

JBRCホームページ <https://www.jbrc.com/>

付属品



※本製品を便利にお使いいただくため、別売品をご用意しています。

別売品については、弊社ホームページ <https://www.icom.co.jp/> をご覧ください。

取扱説明書の構成

本製品の取扱説明書は、本製品に付属の「簡易取扱説明書」(本書)と、弊社ホームページに掲載の「取扱説明書」(PDFファイル)で構成されています。

簡易取扱説明書(本書)

はじめに本製品をお使いになる前に、知っておいていただきたい安全上のご注意や本製品の基本的な操作方法などについて記載しています。

取扱説明書(PDFファイル)

各種機能の詳細や使用方法、別売品などについて記載しています。

下記URL、またはQRコードから弊社ホームページ(サポート→法人のお客様(または、個人のお客様)→取扱説明書)にアクセスすると、取扱説明書を検索できます。



アイコム株式会社 サポート情報 <https://www.icom.co.jp/support/>

はじめに

電波法上のご注意

- ◎無線局の運用に当たっては、電波利用料を納付する必要があります。(納入告知書により、納付期限内に納付)
- ◎登録局の有効期間は、登録日から数えて5年間です。
再登録の申請は、有効期間満了の3ヵ月前から1ヵ月前のあいだに手続きをしてください。
- ◎本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
分解や改造をしないでください。
- ◎本製品は、アンテナを含めて技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
そのため、ご使用いただけるアンテナは、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けたものに限定されます。同梱の「アンテナについて」を参考にしてください。
技術基準適合証明(工事設計認証)を受けていないアンテナを使用すると、電波法違反で罰せられる場合がありますので、ご注意ください。
- ◎他局の通信を妨害することや、通話の内容をほかにもらし、これを窃用することは、かたく禁じられています。
- ◎本製品は、日本国内における陸上、および日本周辺海域で運用する無線機です。
CH01～CH14、CALL CH(CH15)、CH16～CH82は上空での運用はできませんのでご注意ください。
上空で受信する場合は、CH S01～CH S15を使用してください。
無線局登録状の範囲を超えた運用は、1年以下の懲役又は100万円以下の罰金に処せられることとなります。

チャンネル

陸上・海上用チャンネル：CH01～CH14、CH16～CH82

呼出用チャンネル：CALL CH(CH15)^{★1}

上空用チャンネル：CH S01～CH S15^{★2}

★1 一時的な呼び出しをするときに使用します。(P.8)

多くの局が呼出用チャンネルを使用しますので、呼び出し後の通話は、空いている陸上・海上用チャンネルに切り替えてから通話をつづけてください。

※通話相手のデジタル簡易無線機によっては、呼出CHを選択する相手と通話できます。

★2 上空用チャンネルでは送信できません。

出荷時、上空用チャンネルの使用は、「OFF」(P.13)に設定されています。

電波干渉についてのご注意

Bluetoothの通信では2.4GHz帯の電波を使用するため、次のことがらに注意してください。この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を必要とする無線局)、および特定小電力無線局(免許を必要としない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を必要とする無線局)が運用されています。

- ◎この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことをご確認ください。
- ◎万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、使用場所を変更するか、Bluetoothのご使用をお控えください。
- ◎その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、弊社サポートセンター(P.22)までお問い合わせください。

2.4GHz現品表示記号の意味

「2.4」 : 2.4GHz帯を使用する無線設備

「FH」 : FHSS方式

「1」 : 想定干渉距離が10m以下

「—」 : 全帯域を使用し、かつ移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局の帯域を回避不可



2.4FH1
—

電磁波ノイズ

以下に示すようなインバーター回路内蔵の電気製品、および電子機器の近くで使用すると、電磁ノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

インバーター回路内蔵のおもな電子機器

- ◎LED照明器具 ◎電磁調理器 ◎給湯器
- ◎自動車に搭載された電子機器 ◎太陽光発電装置

運転時のご注意

- ◎安全運転のため、運転中に無線機を操作したり、無線機の表示部を注視(表示部を見つづける行為)したりしないでください。
- ◎無線機を操作、または表示部を注視する場合は、必ず安全な場所に停車させてください。
- ◎安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で運転しないでください。
一部の都道府県では、運転中にイヤホンやヘッドホンなどを使用することが規制されています。
- ◎安全運転のため、無線機を身体に付けた状態で運転しないでください。

はじめに

防塵/防水性能

バッテリーパックとアンテナ、保護カバーを正しく取り付けられた状態で、IP67の防塵/防水性能があります。

次のような使いかたをすると、防塵/防水性能を維持できませんので、ご注意ください。

- 水深1m以上、または30分以上水中に放置したとき
- 雨の中や、水滴が付着した状態、またはぬれた手でバッテリーパックやアンテナ、保護カバーを取り付けたり、はずしたりしたとき
- 海水や砂、泥、洗浄液(洗剤)等が無線機に付着したまま放置したとき
- 落下等外的衝撃により、樹脂変形、ひずみ、ひび割れ等が発生した場合や薬品の付着により筐体、ゴムパッキンに劣化が生じたとき
- 長時間、高い水圧をかけたとき
- -20℃～+60℃以外の環境で使用したとき
- 薬品等の蒸気が発散しているところや薬品に触れるところに放置したとき
- 本製品を分解または改造したとき
- 無線機本体とバッテリーパック、アンテナ、別売品を接続するコネクタ間に微細なゴミ(糸くず、毛髪、砂など)が挟まっているとき

別売品の使用による防塵/防水性能

防水形スピーカーマイクロホン(HM-168LWP)を使用したときは、IP67の防塵/防水性能があります。

※ 上記以外の別売品を使用したときは、別売品を含めた防塵/防水性能の低いものに制限されます。

海水が付着したときは？

海水が無線機に付着したときは、すぐに洗い流し、水分をふき取って十分に乾燥させてからご使用ください。

海水が付着したまま放置したり、使用したりすると、故障の原因になります。

※ バッテリーパック、アンテナ、保護カバーを無線機に正しく取り付けられた状態で洗浄してください。

※ 常温の真水でやさしく洗い流してください。

※ ブラシなどを使用せず、手で洗い流してください。

ご注意

次の場合は防水性能を維持できませんので、弊社サポートセンターにご相談ください。

◎ 無線機本体、保護カバーが破損している場合

◎ 落下などの強い衝撃を無線機に与えた場合

IP表記

機器内への異物の侵入に対する保護性能を表すための表記です。

IPにつけて保護等級を示す数字で記載され、1つ目の数字が防塵等級、2つ目が防水等級を意味します。

また、保護等級を定めない場合は、その等級の表記に該当する数字部分を「X」で表記します。

【本書で記載する保護の程度について】

IP6X(耐塵形)：試験用粉塵を1m³あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのちに取り出して、無線機の内部に粉塵の侵入がないこと

IPX7(防浸形)：水深1mの静水(常温の水道水)に静かに沈め、30分間放置したのちに取り出して、無線機として機能すること

音声圧縮(符号化)方式

本製品は、米国DVSI社の開発したAMBE(Advanced Multi-Band Excitation)方式を採用しており、AMBE+2™方式に対応しています。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to extract, remove, decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form U.S. Patent Nos. #8,359,197, and #7,970,606.

ユーザー登録

弊社ホームページ <https://www.icom.co.jp/> にアクセスしていただき、ユーザー登録用フォーム(サポート→法人のお客様(または、個人のお客様)→ユーザー登録)にしたがって必要事項を入力してください。

登録商標/著作権

アイコム、ICOM、ICOMロゴ、ポケットビーブは、アイコム株式会社の登録商標です。Bluetoothのワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、アイコム株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。

QRコードは、株式会社デンソーウェブの登録商標です。

AMBE+2は、Digital Voice Systems, Inc.の商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標、または登録商標です。

なお、本文中ではTM、®などのマークを省略しています。

本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

もくじ

はじめに.....	ii	3 通話のしかた.....	6
本製品の特長.....	ii	■ 通話するときのアドバイス.....	6
付属品.....	iii	■ 基本操作.....	7
取扱説明書の構成.....	iii	■ 応用操作.....	9
電波法上のご注意.....	iv	■ そのほかの機能.....	10
チャンネル.....	iv	4 各種機能の設定.....	11
電波干渉についてのご注意.....	v	■ 設定モードに移行するには.....	11
2.4GHz現品表示記号の意味.....	v	■ 設定のしかた.....	11
電磁波ノイズ.....	v	■ 設定項目一覧.....	12
運転時のご注意.....	v	5 Bluetooth®の使いかた.....	14
防塵/防水性能.....	vi	■ Bluetooth部の仕様.....	14
別売品の使用による防塵/防水性能..	vi	■ ペ어링/接続のしかた.....	14
海水が付着したときは?.....	vi	■ Bluetoothの初期化.....	17
IP表記.....	vii	■ Bluetoothの設定項目一覧... ..	18
音声圧縮(符号化)方式.....	vii	6 ご参考に.....	19
ユーザー登録.....	vii	■ 日常のお手入れと点検.....	19
登録商標/著作権.....	vii	■ 初期化(リセット)するには.....	19
安全上のご注意.....	ix	■ 故障かな?と思ったら.....	20
■ 共通(無線機本体/バッテリーパッ ク/充電器).....	ix	■ アフターサービスについて.....	22
■ 無線機本体.....	x	さくいん.....	23
■ 充電器.....	xi	ご利用ガイド.....	25
■ バッテリーパック.....	xi		
■ バッテリーパックの特性と寿命.....	xiii		
■ バッテリーパックの膨らみ.....	xiii		
1 各部の名称と機能.....	1		
■ 前面部/側面部.....	1		
■ 表示部.....	2		
2 ご使用になる前に.....	3		
■ 付属品の取り付けかた.....	3		
■ 充電のしかた.....	4		
■ 正しい充電のために.....	4		
■ 電源と音量の調整.....	5		
■ 電池の残量表示.....	5		
■ 電池の残量警告音.....	5		

安全にお使いいただくために、必ずお読みください。

- ◎使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい注意事項を示しています。
- ◎次の「△危険」、「△警告」、「△注意」の内容をよく理解してから本文をお読みください。

△危険	これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。
△警告	これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
△注意	これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

免責事項について

地震・雷・風水害などの天災および当社の責任以外の火災、本製品の違法な使用、お客様または第三者が取扱説明書とは異なる使用方法で本製品を使用することにより生じた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

人命救助などを目的とした通信に本製品を使用し、通信の途絶、故障や誤作動、電池の消耗などにより、人命に関わる事態が生じても、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

■共通(無線機本体/バッテリーパック/充電器)

△危険

- ◎引火性ガスの発生する場所では絶対に使用しないでください。
引火、火災、爆発の原因になります。
- ◎次の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、けが、故障の原因になります。
 - 充電器に指定以外のACアダプターを接続しないでください。
 - 指定以外のバッテリーパックを充電しないでください。
 - 指定以外の充電器を使用しないでください。

△警告

- ◎電子レンジや高圧釜などに入れたり、電磁調理器の上に置いたりしないでください。
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。
- ◎次の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。
 - ケーブルの上に乗ったり、重いものを載せたりしないでください。
 - ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。

安全上のご注意

- ◎ 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常がある場合は、使用しないでください。

そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

- ◎ 分解、改造しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
感電、けがの原因になります。

△注意

- ◎ 直射日光の当たる場所や空調機器の吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- ◎ 清掃するときは、洗剤や有機溶剤（シンナー、ベンジンなど）を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。
- ◎ ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、火災、けが、故障の原因となることがあります。
- ◎ -20°C ～ $+60^{\circ}\text{C}$ 以外の環境では使用しないでください。
記載の温度範囲以外でのご使用は、故障の原因になることがあります。

■無線機本体

△警告

- ◎ アンテナやハンドストラップを持って本製品を振り回したり、投げたりしないでください。
本人や他人に当たって、けがや故障、および破損の原因になります。
- ◎ アンテナを接続しないで送信したり、送信しながらアンテナを接続したりしないでください。
感電、故障の原因になります。
- ◎ 大きな音量でヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。
大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。
- ◎ 電子機器の近く（特に医療機器のある病院内）では絶対に使用しないでください。
電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。
- ◎ 民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。
交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。

△注意

- ◎ アンテナを折り曲げたり、ねじったりしないでください。
変形や破損の原因になることがあります。
- ◎ 針金などの細い棒でマイクやスピーカーの穴に触れないでください。
故障の原因になることがあります。

- ◎ 付属品、および指定の別売品以外は使用しないでください。

故障の原因になることがあります。

- ◎ テレビやラジオの近くで送信しないでください。

電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

■ 充電器

△ 警告

- ◎ 次の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

- 充電器に水を入れたり、ぬらしたりしないでください。また、水にぬれたときは、使用しないでください。
- ぬれた手で電源プラグや機器に絶対に触れないでください。
- 充電器の充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。
- 電源ケーブルや接続ケーブルに傷がある、またはACコンセントの差し込みがゆるいときは、使用しないでください。

△ 注意

- ◎ 次の事項を守らないと、火災、液もれ、発熱、感電、故障の原因になります。

- 10℃～40℃以外の環境で充電しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。
- 電源ケーブルを抜き差しするときは、電源ケーブルを引っ張らないでください。
- 充電後や充電しないときは、ACアダプターを抜いてください。

■ バッテリーパック

△ 危険

- ◎ 次の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱や発煙、液もれ、感電、やけどの原因になります。

- バッテリーパックの端子にハンダ付けをしないでください。
- バッテリーパックの端子間を針金などの金属類で接続しないでください。
- 金属類(針金、ネックレス、鍵など)や導電性のあるものをバッテリーパックの上に放置したり、バッテリーパックといっしょに持ち運んだりしないでください。
- バッテリーパックは、単体で水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
- バッテリーパックからもれ出した液が目に入ったときは、こすらないでください。失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流したあと、ただちに医師の治療を受けてください。

- ◎ コンクリートなどのかたい床に落としたり、強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。

外観上、ひび割れや破損がない場合でも、内部で破損している場合があります。その状態で使用をつづけると、破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

- ◎ 火やストーブのそば、車内や炎天下など、高温になる場所での使用、充電、放置はしないでください。

バッテリーパックの性能や寿命が低下、保護装置が動作して充電できなくなったり、保護装置が破損したりして、破裂、発熱、発火や火災、液もれ、やけどの原因になります。

安全上のご注意

- ◎ 火の中に投入したり、加熱したりしないでください。
バッテリーパック内部のガスに引火して、破裂や火災などの原因になります。

△警告

- ◎ 使用中や充電中に、いつもより発熱するなど異常と感じたときは、使用を中止してください。
使用をつづけると、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれ、故障の原因になります。
- ◎ 指定の充電時間以上、充電しないでください。
指定の充電時間を経過しても充電を完了しないときは、ただちに充電を中止してください。破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。
- ◎ 満充電後、すぐに再充電を繰り返さないでください。
過充電になり、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になります。
- ◎ バッテリーパックからもれ出した液が皮膚や衣服に付着したときは、放置しないでください。
皮膚に障害を与えるおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- ◎ テープを巻きつけたり、加工したりしないでください。
バッテリーパック内部からガスが発生することがあり、破裂、発熱、液もれの原因になります。
- ◎ バッテリーパックは、ぬれた状態で無線機や充電器に装着しないでください。
無線機や充電器の電源端子接点部に水や海水が付着して、故障の原因になります。

△注意

- ◎ 次の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。
 - バッテリーパックを満充電にした状態、または完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。
長期間バッテリーパックを保管する場合は、満充電のあと、 (残量あり)の状態を表示するまで使用して、無線機から取りはずし、下記の温度範囲で湿気の少ない場所に保管してください。
約1ヵ月：-20～+50℃
約3ヵ月：-20～+40℃
約1年：-20～+20℃
 - 寒い戸外や冷えたままで充電しないでください。
 - 無線機を使用しないときは、必ず電源を切ってください。

■バッテリーパックの特性と寿命

◎バッテリーパックは、消耗品です。

充電できる回数は、300回～500回が目安です。

充電状況を定期的に確認してください。いつもより発熱しているなどバッテリーパックに異常があると思われるときは、使用を中止してください。

◎発火や火災の原因になることがありますので、劣化したバッテリーパックは使用しないでください。

◎使用せずに保管しているだけでも、劣化が進行します。

◎劣化がはじまると、充電が完了しても運用時間が短くなります。

◎充電が完了しても、運用時間が極端に短くなったときは寿命です。無線機の性能を十分活用するため、長くても5年以内の交換をおすすめします。

■バッテリーパックの膨らみ

このような環境や条件で使用をつづけると、バッテリーパックの性質や特性により、内部が劣化し膨張することがあります。

◎ひんぱんに充電している

◎満充電直後でも再充電している

◎高温な場所で使用・保管している

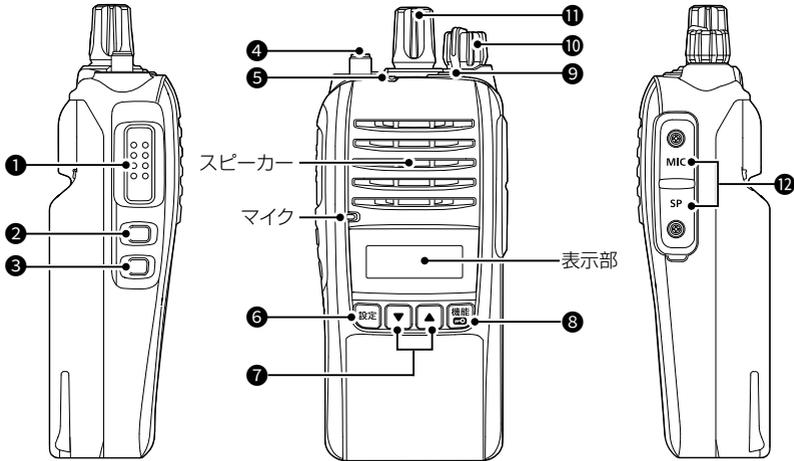
◎本書で説明する充電方法と異なる

バッテリーパックが膨張した場合は、劣化に伴う寿命ですので、新しいものと交換してください。

1

各部の名称と機能

■前面部/側面部



短押し 短く押す(「ピッ」、または「ピピッ」と鳴ります。)

長押し 1秒以上押す(「ビピッ」と鳴ります。)

① [PTT]

押しているあいだは送信状態、はなすと受信状態

② [サイド1]

③ [サイド2]

設定モード(P.13)で割り当てたサブチャンネルPTT機能などを操作

④ アンテナコネクター(P.3)

⑤ 状態表示ランプ

送信時は赤色、受信中は緑色に点灯

⑥ [設定]

短押し 設定項目の選択

長押し 送信出力の切り替え

⑦ [▼]/[▲]

チャンネル、設定内容などの選択

⑧ [機能/]

短押し 設定項目の選択、機能の切り替え(ユーザーコード、秘話、個別呼び出し)

長押し ロック機能の「ON」/「OFF」

⑨ [緊急呼び出し]

短押し プライベートチャンネル

長押し 緊急呼び出しモード

⑩ 電源/音量ツマミ

電源のON/OFF、音量の調整

⑪ CH切り替えツマミ

[▼]/[▲]と同じ動作

⑫ [MIC/SP]ジャック

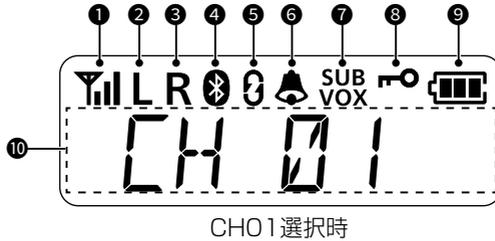
別売品のスピーカーマイクロホンなどを接続するジャック

※プラグを抜き差しするときは、必ず本製品の電源を切ってください。

※防塵/防水性能を維持するため、使用しないときは保護カバーを正しく閉じてください。

※保護カバーは、ネジ(M2×6)で固定されています。

■表示部



- ① 受信電波の強さ(4段階)を表示

無★ 弱 中 強
 ★待受状態、または受信した電波の強さが著しく弱いときに表示されます。
- ② **L** 送信出力が1Wに設定されているとき
- ③ **R** 送信禁止が設定されているとき
- ④ Bluetooth機能が「ON」のとき
- ⑤ 秘話機能が「ON」のとき
- ⑥ 点滅：通話相手から個別呼び出し、またはポケットビープ機能が「OFF」以外で、ユーザーコードによる呼び出しを受けたとき
 点灯：ポケットビープ機能が「OFF」以外で個別呼び出し機能、またはユーザーコード機能が「ON」のとき
- ⑦ **SUB** 点灯：サブチャンネルPTT機能が設定されているとき
VOX 点灯：VOX機能が「OFF」以外のとき
- ⑧ ロック機能が「ON」のとき
- ⑨ 電池残量の目安(4段階)を表示
- ⑩ 音量、通話チャンネル、ユーザーコード、秘話キー、設定モードなどを表示

■付属品の取り付けかた

【アンテナ】



【ハンドストラップ】

ハンドストラップ



【ベルトクリップ】

本体からバッテリーパックを取りはずした状態で、ベルトクリップを着脱してください。

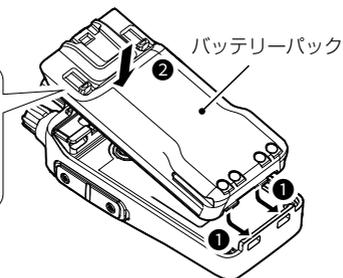
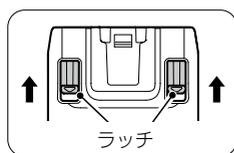


【バッテリーパック】

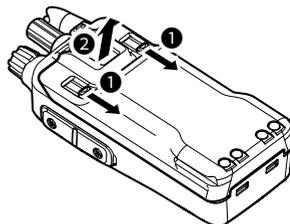
本製品の電源を切った状態で、バッテリーパックを着脱してください。

※取り付けるときは、図のようにスライドしたあと、バッテリーパックがラッチで固定されるまで、しっかりと押してください。

取り付けるとき



取りはずすとき



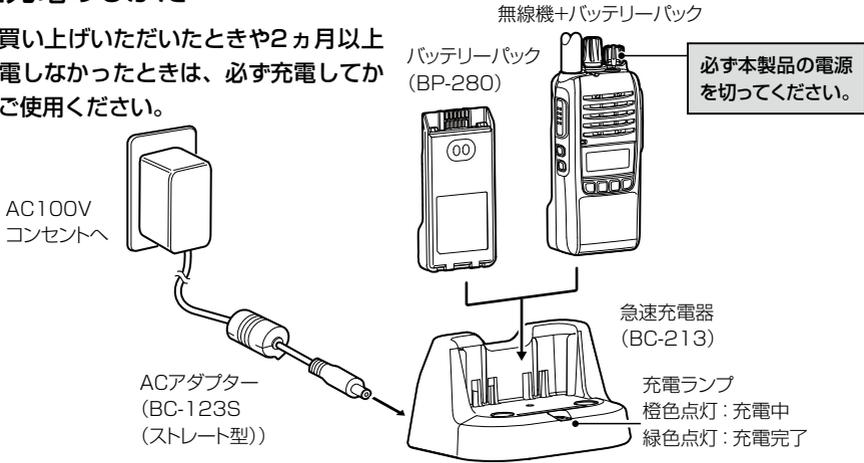
△注意

しばらく本製品を使用しないときは、バッテリーパックを本製品から必ず取りはずしてください。

※本製品の電源を切った状態でも、常に微少の電流が流れていますので、電池が消耗する原因になることがあります。

■充電のしかた

お買い上げいただいたときや2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してからご使用ください。



△危険

- ◎ 充電するときは、必ず本製品に対応したACアダプター、充電器をご使用ください。
- ◎ 「安全上のご注意」(P.ix)を併せてお読みになり、安全な方法で充電してください。

【充電時間と運用時間の目安】

充電時間 約4時間 (BC-213使用時)

運用時間 送信出力5W: 約13.5時間 送信出力1W: 約19時間

条件: BP-280を使用して、送信5、受信5、待ち受け90の割合で繰り返し運用

Bluetooth: OFF、バックライト: OFF、パワーセーブ: OFF

※ご使用方法、使用する充電器によって、充電時間や運用時間が異なります。

※バッテリーパックの残量がない状態で充電した場合の時間です。

■正しい充電のために

◎ バッテリーパックは、使い切らずに継ぎ足し充電ができます。

なお、満充電した直後に再充電しないでください。

◎ 満充電、または完全に使い切った状態で長期間放置すると、バッテリーパックの寿命が短くなるおそれがあります。

長期間バッテリーパックを保管する場合は、残量表示が (残量あり) の状態になるまで使用し、無線機からバッテリーパックを取りはずして保管してください。

◎ 極端に高温、または低温の環境下、バッテリーパックと充電器の温度差が大きい場合、充電できないことがあります。充電器は、次の環境でご使用ください。

BC-213: 10℃～40℃

◎ 充電口や充電端子各部にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがありますので、乾いた布などで、各端子を定期的についでください。

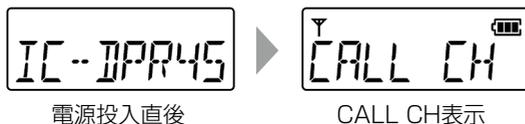
2 ご使用になる前に

■電源と音量の調整

【電源の入れかた】

電源/音量ツマミを時計方向に回します。

- 状態表示ランプが点灯し、ビープ音が鳴ります。



【音量調整のしかた】

電源/音量ツマミを時計方向に回すと、音量が大きくなります。相手の音声聞きやすい音量にしてください。

調整できる範囲は、「0～32」です。



音量表示例：10

- ※防塵/防水対応により、ツマミは簡単に回らない構造になっています。
- ※音量が最小のときは、操作音(ビープ音)や受信した音声などは聞こえません。

■電池の残量表示

電池の残量(目安)を電池マークで表示します。

※別売品の外部電源供給器(AD-149H)を接続しているときは、が表示されます。

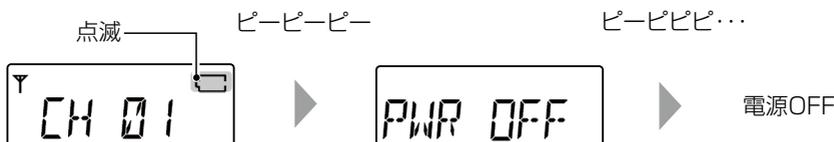


■電池の残量警告音

電池の残量が少なくなると、電池マークが点滅して、警告音が「ピーピーピー」と、約30秒ごとに鳴ります。

警告音が鳴り出したら、すぐに充電してください。

※点滅表示の状態で使用をつづけると、警告音が「ピーピピピ…」と2秒間鳴りつづけたあと、無線機の電源が自動的に切れます。



■通話するときのアドバイス

送信時間制限

1回の送信で連続して通話できる時間は、「5分以内」と電波法で定められています。制限時間の10秒前になると、「ピッ」と鳴ります。

連続通話時間が5分になると、警告音が「ブツ」と鳴って、自動的に送信を停止します。停止後、1分間は送信できません。通話を再開する場合は、1分後に[PTT]を押してください。

混信防止(キャリアセンス)機能

無線局の運用では、自分が送信中に、ほかの人が同じ通話チャンネルで送信すると、混信を受け通話ができないことがあります。また、ほかの人が通話中のチャンネルで送信すると、その通話を妨害することになります。

このような混信を防止するために、同じチャンネルで一定レベルの電波を本製品が受信している場合は、通話中とみなし、送信できないよう自動的に制御する機能をキャリアセンスといいます。

キャリアセンスは、本製品が送信を開始するときに動作します。

3秒以上通話が途切れた場合、本製品が通話を終了したと判断し、次の送信開始時からキャリアセンスの機能が動作します。

なお、ほかの電子機器からの電波を受信した場合(混信や妨害波を含む)についてもキャリアセンスが動作し送信できないことがあります。故障ではありません。本製品は、電波法によりこのキャリアセンスの搭載が義務付けられています。

電波干渉

比較的せまいエリアで、多くの局が通話するような状態では、電波の干渉(相互変調)による混信が発生することがあります。このような混信は、グループごとに通話チャンネルの組み合わせを適切に設定することで防止できます。

通話範囲

通話範囲は、周囲の建物などの状況により異なりますので、下記の数値を目安に通話してください。(送信出力：5W)

見通しのよい場所：約4km

市街地：約0.5～1km

※通話範囲であっても、山や建物などが障害物となって、通話しにくくなる場合があります。

そのときは、場所を少し移動して通話してください。

また、テレビやラジオなどの家電製品、パソコン、および電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作したりすることがありますので、はなれてご使用ください。

パワーセーブ機能

何も操作しない(受信もしない)状態が10秒を超えると、自動的に無線機本体の動作を休止状態にし、電池の消耗を抑えます。

※初期設定では「OFF」になっています。必要に応じて、設定モードで変更してください。(P.11)

※着呼率を著しく低下させるため、個別呼び出し機能とパワーセーブ機能の併用を制限しています。(P.13)

※サブチャンネルPTT機能と併用できません。(P.13)

3 通話のしかた

■基本操作

1. 通話チャンネルを合わせる

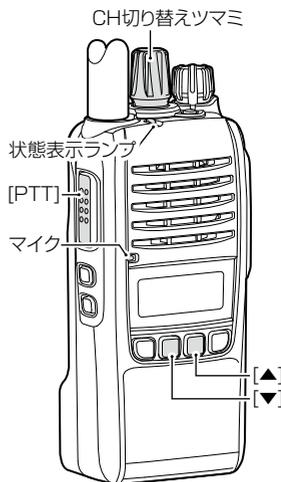
[▼]/[▲]を押して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。

※CH切り替えツマミを回してもチャンネルを選択できません。

2. [PTT]を押しながら自分の声を送信する

相手と同じ通話チャンネルに合わせてから、他局が通信していないこと(状態表示ランプ：消灯)を確認後、[PTT]を押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。

- [PTT]を押しているあいだは、送信状態となり、状態表示ランプが赤色に点灯します。



3. [PTT]をはなして、相手の音声を受信する

[PTT]をはなすと待受状態になり、相手局が送信すれば、受信した相手の音声が入ります。

受信中は、状態表示ランプが緑色に点灯し、受信している電波状態が表示されます。



4. 通話をつづける

応答するときは、待受状態(状態表示ランプ：消灯)になってから、[PTT]を押します。

※相手が送信しているときは、[PTT]を押しても混信防止機能が動作して、「プップッ…」と鳴りつづき、送信できません。相手の通話が終了してから、送信してください。

※送信の終わりに「どうぞ」を付け加えると、互いの会話がスムーズになります。

ご参考

◎マイクと口元を約5cmはなし、普通の大きさの声で通話してください。マイクに口を近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにくくなります。

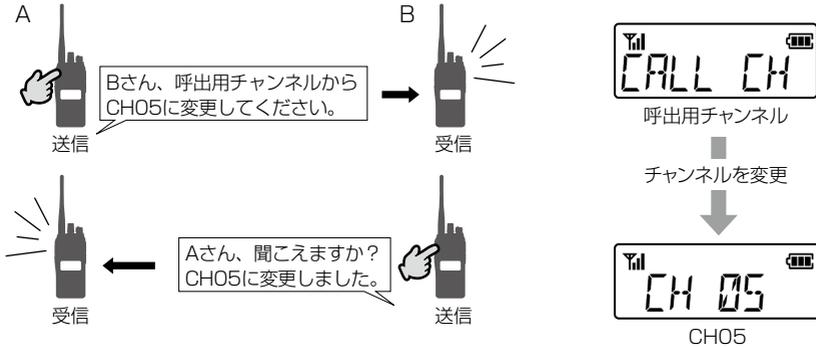
◎[PTT]を押したとき、「ピッ」*と鳴ったら、通話相手に呼びかけてください。

★送信モニタービーブ機能「OFF」時は鳴りません。(初期設定：ON)



【通話チャンネルが決まっていない場合は】

呼出用チャンネルに合わせ、使用する通話チャンネルを相手と決めます。



3

呼出用チャンネル

工場出荷時や全設定初期化時、電源を入れると、呼出用チャンネルの「CALL CH」*が表示されます。このチャンネルは一時的な呼び出しにだけ使用します。

呼び出した相手と通話をつづける場合は、空いている通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH82)に変更してから通話してください。

※電源を入れなおすと、前回選択した通話チャンネルが表示されます。

※ユーザーコード、秘話機能、個別呼び出し機能による通話には使用できません。

★本製品以外では、「呼出CH」や「CH15」と表示されるチャンネルです。

【ロック機能】

不用意に無線機のキーに触れたりしても、設定や表示が変わらないようにする機能です。

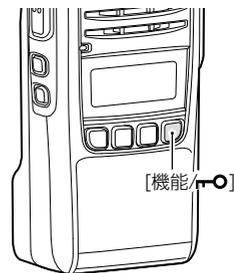
[機能/]を長く(約1秒)押すと、ロック機能がONになり、表示部に[]が表示されます。

※同じ操作をすると、ロック解除できます。

※ロックされない操作は、ロック機能の解除、送信/受信、モニター機能のON/OFF、電源の入/切、音量調整*です。

※緊急呼び出し機能が設定されている場合、ロック中でも緊急呼び出しの操作ができます。(P.12)

★初期設定では、音量調整はロックされません。必要に応じて、設定モードで変更してください。(P.11)



3 通話のしかた

■応用操作

ご利用になるエリアや目的に応じて、ユーザーコード、秘話機能、個別呼び出しなどもご使用ください。

詳細については、取扱説明書(PDFファイル)をご覧ください。

【ユーザーコード】

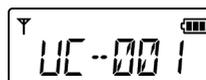
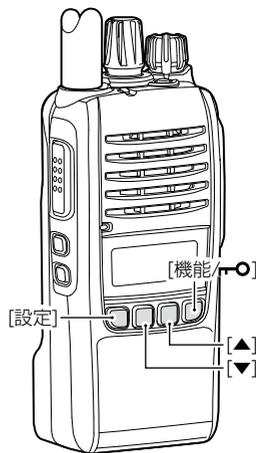
複数の通話相手と同じユーザーコード(UC)を設定するだけで、簡易的な通話グループが構成できます。通話チャンネルとユーザーコードが一致したすべての相手と通話できます。

※秘話機能や個別呼び出し機能と併用できます。

- ① 相手と同じ通話チャンネルに合わせます。(P.7)
- ② [機能/☐]を短く押して、「UC-OFF」を選択します。
- ③ [▼]/[▲]を押して、相手と同じユーザーコードに合わせます。(例：001)

※ [設定] を短く押すと、編集できる桁が点滅します。

[機能/☐]を短く押すと、確定します。



ユーザーコード「001」

【秘話機能】

秘話機能を設定すると、通話内容が傍受されるのを防止できます。通話チャンネルと秘話キーが一致したすべての相手と通話できます。

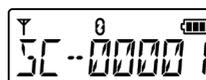
- ① 相手と同じ通話チャンネルに合わせます。(P.7)
- ② [機能/☐]を短く押して、「SC-OFF」を選択します。
- ③ [▼]/[▲]を押して、「SC-ON」を選択します。
- ④ [設定]を短く1回押します。
- ⑤ [▼]/[▲]を押して、相手と同じ秘話キー(5桁)に合わせます。(例：00001)

※ [設定] を短く押すと、編集できる桁が点滅します。

[機能/☐]を短く押すと、確定します。



秘話機能「ON」



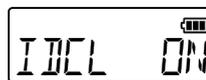
秘話キー「00001」

【個別呼び出し】

(初期設定：OFF)

詳細な設定をすることで「全局呼び出し」、「個別呼び出し」、「グループ呼び出し」を構成できます。

必要に応じて、設定モードで設定してください。(P.11)



個別呼び出し機能「ON」

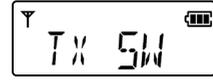
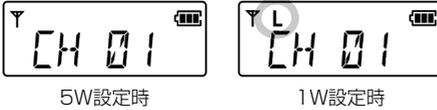
■そのほかの機能

【送信出力の切り替え】

[設定]を長く(約1秒)押すごとに、送信出力(5W/1W)が切り替わります。

◎通話相手との距離に応じて、1Wに切り替えると、消費電力を節約できます。

◎1W設定時は、表示部に「L」(Low)が表示されます。



TX 5W(送信出力5W)

[設定]



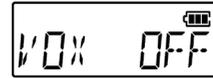
TX 1W(送信出力1W)

【VOX機能】

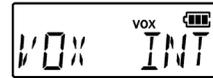
(初期設定：OFF)

本製品の[PTT]を押さずに、無線機の本体マイク、またはBluetooth機器(VS-3)からの音声によって送受信を自動的に切り替えられる機能です。

必要に応じて、設定モードでVOX機能の設定を「INT」(本体マイク)、または「BT」(Bluetooth)に変更してください。(P.12)



VOX機能「OFF」



VOX機能「INT」

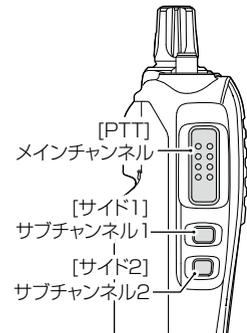
【サブチャンネルPTT機能】

(初期設定：OFF)

[サイド1]、[サイド2]にサブチャンネルを割り当てることで、最大3チャンネル間で送受信ができる機能です。

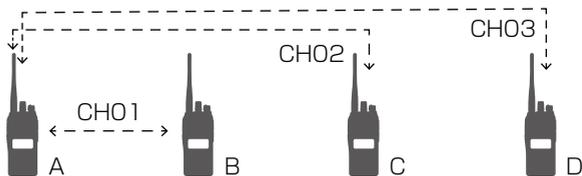
必要に応じて、設定モードでサブチャンネルPTT機能を設定してください。(P.13)

※サブチャンネルPTT機能設定時、設定できない機能や[サイド1]、[サイド2]に割り当てて使用できない機能があります。



(設定イメージ)

メインチャンネル：CHO1
 サブチャンネル1：CHO2
 サブチャンネル2：CHO3



運用状況に応じて、設定モードからお好みの設定に変更できます。

■設定モードに移行するには

- ① 本製品の電源を切った状態で、[機能/]を押しながら、電源/音量ツマミを回して電源を入れます。
 - 「ピッ」と鳴って、「MODE CHG」が表示されます。
 - ② [機能/]から手をはなしたら、すぐに[機能/]を短く押します。
 - 「ピピッ」と鳴って、「SET MODE」のあと、設定項目が表示されていれば、設定モードに移行しています。
- ※「MODE CHG」が表示されなかったときは、電源を切り、操作をやり直してください。



[機能/]



ポケットビーブ機能設定

■設定のしかた

設定モードに移行後、下記の手順で各機能の設定を変更できます。

例：送信モニタービーブ機能をOFFにする場合

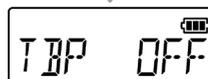
- ① [設定]、または[機能/]を短く押して、設定項目を選択します。
- ② 目的の項目名で、[▼]/[▲]を押します。
 - 設定が切り替わります。

※ほかの機能も変更するときは、①と②の操作を繰り返します。
- ③ [PTT]を押します。
 - 選択した設定を確定し、設定モードが解除され、チャンネル表示に戻ります。

※別売品を接続しているときは、その製品の[PTT]を押します。

※設定変更後に電源を切った場合でも、設定が確定されます。

※設定モードを解除するまで通話できません。

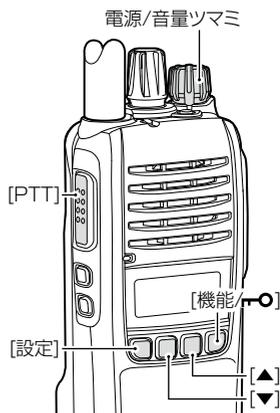


送信モニタービーブ機能
[OFF]

[PTT]



チャンネル表示



■設定項目一覧

工場出荷時や全設定初期化時に表示される設定項目と初期設定です。

【設定画面の見かた】



項目名	画面表示/初期設定	説明
ポケットビープ (PBP)★	PBP OFF	ユーザーコード、個別呼び出しによる呼び出しを受けたときの通知音を設定します。
送信モニタービープ (TBP)★	TBP ON	[PTT]を押したときのビープ音を設定します。
終話信号受信ビープ (EBP)	EBP ON	通話相手の終話信号を受信したとき、ビープ音で通知する機能です。
ビープ音量設定 (BVOL)	BVOL LNK	ポケットビープやキー操作などの音量を、無線機本体の音量と連動するかどうかを設定します。 ※[LNK]は連動、「FIX」は固定を意味します。
ユーザーコード (UC)	UC COM	通話チャンネルごとに、ユーザーコードを共通(COM)にするか、個別にするかを設定します。
秘話(SC)	SC COM	通話チャンネルごとに、秘話キーを共通(COM)にするか、個別にするかを設定します。
チャンネル番号音声案内 (GUID)	GUID OFF	通話チャンネル番号を読み上げる機能を設定します。
マイクゲイン(MIC)	MIC 0	マイク感度を設定します。
VOX機能★	VOX OFF	VOX機能を設定します。
個別呼び出し (IDCL)	IDCL OFF	個別呼び出し機能を設定します。
エマージェンシー (EMG)	EMG OFF	緊急呼び出し(エマージェンシー)機能を設定します。
プライベートCH(PCH)	PCH ON	よく使用する通話チャンネルにすばやく切り替えるプライベートチャンネル機能を設定します。
プライベートCH-CH	PCH CALL	よく使用する通話チャンネルを、プライベートチャンネルに設定します。 ※[PCH]を「ON」に設定したとき表示されます。

★「SUB」(サブチャンネルPTT)を「OFF」に設定したとき表示されます。(P.13)

4 各種機能の設定

■ 設定項目一覧

項目名	画面表示/初期設定	説明
サイド1キー短押し (S1S)	S1S OFF	[サイド1]や[サイド2]を短く押したときに動作する機能(通話チャンネル表示、スキャン、スキャン一時スキップ、一時音量切り替え)を設定します。
サイド2キー短押し (S2S)	S2S OFF	
サイド1キー長押し (S1L)	S1L OFF	[サイド1]や[サイド2]を長く(約1秒)押したときに動作する機能(通話チャンネル表示、スキャン、スキャン一時スキップ、一時音量切り替え、モニター)を設定します。
サイド2キー長押し (S2L)	S2L OFF	
パワーセーブ (PSV)	PSV OFF	電池の消耗を抑えるパワーセーブ機能を設定します。 ※「IDCL」(個別呼び出し)と「SUB」(サブチャンネル PTT)を「OFF」に設定したとき表示されます。
キーロック時の音量操作(LCK)	LCK VLOK	ロック機能動作中の音量調整を設定します。 ※初期設定では、VLOK(音量可)になっています。
オートキーロック (ATLK)	ATLK OFF	一定時間、スイッチやキーが操作されないとき、それらの操作を自動的にロックします。
上空用チャンネル (SKY)	SKY OFF	上空用チャンネル(S01～S15)の使用を設定します。
バックライト (BKLT)	BKLT AT	操作時のバックライト機能を設定します。
電源オンLED (PLED)	PLED RNB	無線機の電源を入れたときに点灯する状態表示ランプの色を設定します。
外部電源初期値 (EXTV)	EXTV AT	別売品に電源を供給するための設定です。
使用バッテリー (BAT)	BAT LION	無線機で使用する電池の種類を設定します。 ※初期設定では、リチウムイオンバッテリーパック (BP-280)になっています。
イヤホン(EAR)	EAR OFF	別売品のイヤホン装着時に過入力を防ぐため、外部AF出力レベルを下げる機能を設定します。
送信イコライザー (TEQ)	TEQ FLAT	送信時の音質を変更するときに設定します。
受信イコライザー (REQ)	REQ FLAT	受信時の音質を変更するときに設定します。
サブチャンネル PTT(SUB)	SUB OFF	サブチャンネルPTT機能を設定します。 ※下記項目を「OFF」に設定したとき表示されます。 「PBP」(ポケットビープ)、「VOX」、「LOG」(着信履歴)、「PSV」(パワーセーブ)
Bluetooth(BT)	BT OFF	Bluetooth機能を設定します。
リセット(RST)	RST NO	すべての設定を工場出荷時の状態に戻す(リセットする)ときの操作です。 ※ペアリングしたBluetooth機器の情報も削除されます。

◎本製品のBluetooth機能を有効にすると、Bluetooth対応機器と接続できます。

※この機能を使用する場合は、設定モードでの設定が必要です。(P.15)

※2024年2月現在、動作確認済みの弊社製Bluetooth機器は、VS-3(別売品)です。

本製品とVS-3をBluetoothで接続すると、VS-3から送受信できます。

◎Bluetoothの通信範囲は、約10m(目安)です。

◎本製品に登録できるBluetooth機器は1台だけです。

Bluetoothの通信においては、周辺機器の影響で通信範囲が著しく変化します。

◎ 電子レンジなどによる妨害

◎ 無線LANによる妨害

このような場合は、ほかのワイヤレス通信を停止させたり、電子レンジなどの使用を中止したり、周辺機器との距離をはなすなどしてください。

また、Bluetooth機器と本製品の距離をできるだけ近づけると、通信状況が改善することがあります。

■Bluetooth部の仕様

◎適応規格 : Bluetooth Ver. 5.2準拠

◎送信出力 : Class 1

◎対応プロファイル : HFP (Ver.1.8)

■ペアリング/接続のしかた

ペアリング(接続の認証)とは、Bluetooth機器をお互いに登録し、接続を許可するためのものです。

一度ペアリングしたBluetooth機器とは、それ以降ペアリングする必要はありません。

本体側の電源をONにするとBluetooth機器と接続され、OFFにすると切断されます。

※本書では、VS-3を例に説明しています。

ご注意

◎本製品と接続する機器は、Bluetooth SIGの定めるBluetooth標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。

また、Bluetooth標準規格に適合していても、機器の仕様や設定により、本製品と接続できないことがあり、すべての動作を保証するものではありません。

◎複数のBluetooth機器がある場所では、ペアリングしたいBluetooth機器が検出されないことがあります。

このような場合は、必要なBluetooth機器だけになるように、使用しないBluetooth機器の使用を停止、またはほかのBluetooth機器からはなれるなどしてください。

◎電源を切るなどして、Bluetooth接続を切断した場合は、無線機本体側のスピーカーから音が出るように切り替わります。無線機本体側の音量の上げすぎにご注意ください。

5 Bluetooth®の使いかた

■ペアリング/接続のしかた

1. VS-3をペアリングモードにする

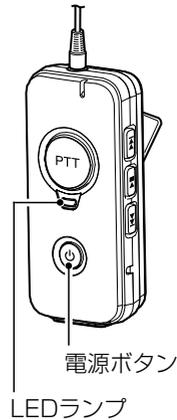
① 電源OFF時、LEDランプが赤/青交互に点滅するまで、VS-3の電源ボタンを長く(約6秒)押します。

② 数秒後、「ピパ」*と鳴って、LEDランプが赤/青交互に点滅するのを確認してから、ボタンから手をはなします。

※はじめてVS-3をご使用になる場合やVS-3のペアリングリストを初期化したあとは、電源を入れるだけでペアリングモードになります。

※ペアリングする機器がない状態が5分つづくと、ペアリングモードが解除され、さらに5分経過すると、電源が切れます。

★VS-3に接続しているイヤホンから音が鳴ります。



2. Bluetooth機能をONにする

① 本製品の電源を切った状態で、[機能/]を押しながら、電源/音量ツマミを回して電源を入れます。

• 「ピッ」と鳴って、「MODE CHG」が表示されます。

② [機能/]から手をはなしたら、すぐに[機能/]を短く押します。

• 「ピピッ」と鳴って、「SET MODE」のあと、設定項目が表示されていれば、設定モードに移行しています。

※「MODE CHG」が表示されなかったときは、電源を切り、操作をやり直してください。

③ [設定]、または[機能/]を押して、「BT」を選択します。

④ [▲]を押して、「ON」にします。

• []が点滅します。

⑤ 設定モードのまま、次の手順「3.IC-DPR45からVS-3をペアリングする」を操作します。



3. IC-DPR45からVS-3をペアリングする

- ① [機能/ ] を押して、「PAIRING」を表示します。
- ② [サイド2] を押します。
 - 「PAIRING」が点滅し、ペアリングを開始します。
 - 接続動作に移行すると、「CONNECT」点滅になります。
 - 「SUCCESS」が点滅後、「PAIRING」に戻ると接続成功です。 が点灯します。
 ※ペアリングや接続に失敗すると、「FAIL」が点滅し、「PAIRING」に戻ります。
- ③ [PTT] を押します。
 - 設定モードが解除され、チャンネル表示に戻ります。



ペアリング中 (PAIRING)



接続動作中



接続成功

ペアリング失敗/
接続失敗

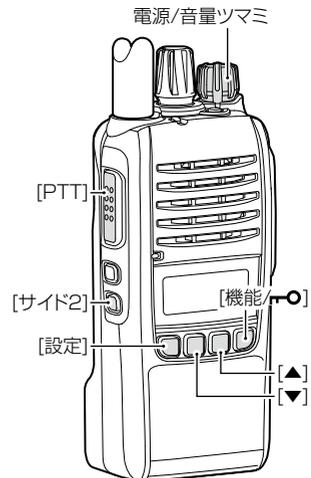
【ペアリング後の動作について】

一度ペアリングしたBluetooth機器とは、それ以降ペアリングする必要はありません。

下記の条件を満たしている場合、自動で接続します。

- ◎無線機のBluetooth機能が「ON」
- ◎無線機が待受状態
- ◎Bluetooth機器の電源が「ON」

※接続中は が点滅します。接続が完了すると が点灯します。

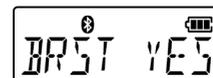


5 Bluetooth®の使いかた

■Bluetoothの初期化

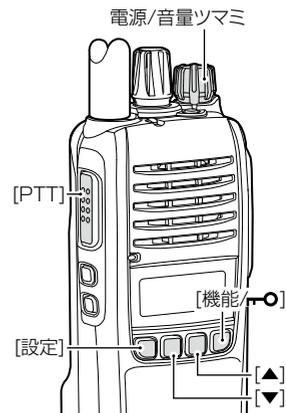
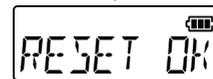
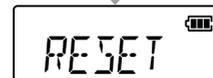
正しく動作しないと思われた場合は、下記の手順で本製品のBluetoothの初期化をしてください。

- ① 本製品の電源を切った状態で、[機能/ ]を押しながら電源を入れます。
 - 「ピッ」と鳴って、「MODE CHG」が表示されます。
- ② [機能/ ]から手をはなしたら、すぐに[機能/ ]を短く押します。
 - 「ピピッ」と鳴って、「SET MODE」のあと、設定項目が表示されていれば、設定モードに移行していません。
 - ※「MODE CHG」が表示されなかったときは、電源を切り、操作をやり直してください。
- ③ [設定]、または[機能/ ]を押して、「BT」を選択します。
- ④ [▲]を押して、「ON」にします。
 - [Bluetoothアイコン]が点滅します。
- ⑤ [機能/ ]を押して、「BRST」を選択します。
- ⑥ [▲]を押して、「YES」にします。
- ⑦ [PTT]を押します。
 - 「RESET」が表示され、初期化が実行されます。「RESET OK」を表示後、「BT OFF」表示に戻ると初期化完了です。
 - ※[PTT]を押さずに電源を切った場合は、Bluetooth機器の情報は初期化されません。



Bluetooth初期化
「YES」

「PTT」



Bluetoothの設定項目一覧

設定モードでBluetooth機能を有効にすると、関連する設定項目が表示されます。

項目名	画面表示/初期設定	説明
ペアリング (PAIRING)	PAIRING	[サイド2]を押すと、周囲のBluetooth機能対応ヘッドセットを検索し、ペアリングします。
Bluetooth パワーセーブ(BPS)	BPS OFF	接続しているBluetooth機器のパワーセーブ機能を設定します。
Bluetooth ワンタッチPTT(BOP)	BOP OFF	VS-3の[PTT]を短く押しごとの送信と受信を切り替える機能を設定します。
Bluetooth PTT&マイク切り替え (P&M)	P&M ALL	Bluetooth接続時、無線機や別売品の外部機器のPTT操作とマイクを制限するときに設定します。 ※初期設定の「ALL」では、Bluetoothヘッドセット、および別売品のPTT操作とマイクが有効になっています。 ※別売品を接続しない場合、無線機のPTT操作とマイクが有効になります。
Bluetooth AF出力切り替え (BAF)	BAF HS	Bluetooth接続時、無線機や別売品の外部機器のスピーカーを制限するときに設定します。 ※初期設定の「HS」では、Bluetooth機器のイヤホンだけを使用するようになっています。
Bluetooth マイクレベルオフセット (BMO)	BMO 0	Bluetoothマイクロホンの感度(1～15)を設定します。
Bluetooth AFレベルオフセット (BAO)	BAO 0	Bluetooth機器の音量(1～15)を設定します。
Bluetooth 初期化 (BRST)	BRST NO	「YES」を選択して、[PTT]を押すと、Bluetoothの全設定を初期化します。

■日常のお手入れと点検

- ◎ 清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。また、バッテリーカバーを取りはずした状態では、乾いたやわらかい布でふいてください。
- ◎ 無線機本体、バッテリーパックの各端子(充電端子や電源端子)にゴミやホコリが付着すると、接触不良が原因で正常に動作しないことがあります。乾いた布などで、各端子を定期的なふいてください。
- ◎ 使用される前に、電池の容量が十分残っているか、表示部の残量表示を確認してください。また、バッテリーパックなどがしっかりと装着されているか点検してください。
- ◎ 定期的に決まった位置の相手局と通話して、通話状態に変化がないかを調べてください。
- ◎ 音量が最小に調整されていないか、電源/音量ツマミを回して、表示部で音量を確認してください。

■初期化(リセット)するには

静電気などによる外部要因で本体の表示や動作がおかしくなったときは、リセットをしてください。

- ① 本製品の電源を切った状態で、[機能/⏻]を押しながら電源を入れます。
 - ・「ピッ」と鳴って、「MODE CHG」が表示されます。
- ② [機能/⏻]から手をはなしたらすぐに、[機能/⏻]を短く押します。
 - ・「ピピッ」と鳴って、「SET MODE」のあと、設定項目が表示されていれば、設定モードに移行しています。
 ※「MODE CHG」が表示されなかったときは電源を切り、操作をやり直してください。
- ③ [設定]を1回押します。
 - ・「RST NO」を表示します。
- ④ [▲]を押して、「RST YES」表示を選択します。
- ⑤ [PTT]を短く押します。
 - ・一時的に電源が切れ、初期状態になります。



ご注意

初期化操作をするときは、バッテリーパックの残量表示が (十分)の状態でおこなってください。なお、設定内容がリセットされ再起動するまでの2秒間は、無線機の電源を切らないでください。

※ リセットの途中で電源が切れると、故障の原因になることがあります。

■故障かな？と思ったら

下記のような現象は故障ではありませんので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

それでも異常があるときは、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。(P.22)

現象	原因	処置	参照
電源が入らない	バッテリーパックの接触不良	バッテリーパックの端子を清掃する アルカリ乾電池ケースをご使用の場合は、乾電池の極性を間違えていないかを確認する	—
	バッテリーパック、または乾電池の消耗	バッテリーパックは充電し、乾電池は新しいものに入れ替える	—
	バッテリーパックをご使用の場合、保護回路が動作している	無線機からバッテリーパックを取りはずし、少し充電したあとにバッテリーパックをもう一度装着してから電源を入れる	—
スピーカーやイヤホンから音が聞こえない	音量が最小に設定されている	電源/音量ツマミを回して、無線機本体の音量を確認する	P.5
送信できない (ブプッ…が鳴る)	5分間の送信時間制限が過ぎているとき	1分以上待ってから、もう一度送信する	P.6
	ほかの無線機が送信しているため、混信防止機能が動作している	状態表示ランプが消灯してから送信する	P.6
	上空用チャンネルになっている	CH01～CH82に移動する	P.iv
通話できない	通話チャンネルが合っていない	相手と同じ通話チャンネルに合わせる	P.7
	ユーザーコードの設定が正しくない	相手と同じユーザーコードを設定する	P.9
	相手が秘話機能を使用していない、または自分と秘話キーの設定が異なる	相手の秘話機能と秘話キーの設定を確認する	P.9
	自分が秘話機能を使用していない		
	相手局番号、またはグループ番号を間違えている	相手局番号、またはグループ番号を確認する	—
相手から応答がない	相手との距離がはなれすぎている	場所を移動してから通話してみる	—

6 ご参考に

■故障かな?と思ったら

現象	原因	処置	参照
通話チャンネル選択と送信出力切り替え以外の操作ができない	呼出用チャンネル(CALL CH)を設定している	通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH82)に変更する	P.8
キー操作ができない	ロック機能が動作している	ロック機能を解除する	P.8
受信音が聞こえない	秘話機能を使用していない	秘話機能と秘話キーの設定を確認する	P.9
	ユーザーコードを設定している	相手のユーザーコードの設定を確認する	P.9
充電が完了しない	無線機の電源を入れた状態で充電している	無線機の電源を切った状態で充電する	P.4
充電中に、充電器のランプが橙色と緑色を交互に点灯している	バッテリーパックが正しく差し込まれていない	無線機に正しく差し込まれていることを確認する	P.4
	10℃～40℃以外の環境で充電している	10℃～40℃の環境で充電する	P.4
	各端子(充電端子や電源端子)の接触不良	ゴミやホコリが各端子に付着していないことを確認する	
充電しない	充電器の保護装置が動作している	ACアダプターを抜き差しする	P.4
ペアリングできない	ペアリングモードになっていない	ペアリングモードにする	P.15
	周辺にBluetooth対応機器が複数稼働している	ほかのBluetooth対応機器を停止させる	—
		ほかのBluetooth対応機器のない場所に移動する	—
周辺の無線LAN機器、または電子機器が妨害している	ほかのワイヤレス通信を停止させたり、周辺機器との距離をはなす	—	

※バッテリーパックを充電しなおしても電源が入らない場合や運用時間が短い場合は、バッテリーパックの故障、または寿命です。(P.xiii)

お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

■アフターサービスについて

「故障かな?と思ったら」(P.20)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

●保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

●弊社製品のお問い合わせ先について

お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先

アイコム株式会社 サポートセンター

0120-156-313(フリーダイヤル)

◆ 携帯電話・公衆電話からのご利用は、

06-6792-4949(通話料がかかります)

受付(平日 9:00～17:00)

電子メール：support_center@icom.co.jp

アイコムホームページ：https://www.icom.co.jp/

さくいん

B

Bluetooth	
初期化(機器の情報削除) …	17
対応プロファイル …	14
ペアリング …	16

C

CALL CH …	8
CH15 …	8
CONNECT …	16

F

FAIL点滅 …	16
----------	----

I

IDCL …	9、12
INT …	10
IP表記 …	vii

M

MIC …	12
[MIC/SP]ジャック …	1
MODE CHG …	11

P

PAIRING …	16
[PTT] …	7

S

SC …	9、12
SET MODE …	11
SUB …	2、13

U

UC …	9、12
------	------

V

VOX …	2、10、12
VS-3 …	15

い

イコライザー …	ii、13
イヤホン …	13

う

運用時間 …	4
--------	---

え

エマーゼンシー …	12
-----------	----

お

オートキーロック …	13
お手入れと点検 …	19
音量調整 …	5、8

か

外部電源初期値 …	13
-----------	----

き

キーロック時の音量操作 …	13
キャリアセンス …	6
緊急呼び出し …	1、8、12

こ

個別呼び出し …	9、12
混信防止機能 …	6、7

さ

[サイド1]/[サイド2] …	13、16
サブチャンネル …	10
サブチャンネルPTT 2、6、10、13	

し

充電	
充電時間 …	4
充電ランプ …	4
使用温度 …	xi
終話信号受信ビープ …	12
上空用チャンネル …	iv、13

状態表示ランプ…………… 7、13
 使用バッテリー…………… 13
 初期化…………… 19

せ

[設定]…………… 1、10
 設定モード…………… 11

そ

送信禁止…………… 2
 送信時間制限…………… 6
 送信出力…………… 10
 送信モニタービープ…………… 7、12

ち

チャンネル…………… iv、7、8
 チャンネル番号音声案内…………… ii、12

つ

通話範囲…………… 6

て

電源オンLED …………… 13
 電源/音量ツマミ …………… 5、11
 電磁波ノイズ…………… v
 電池
 残量警告音 …………… 5
 残量表示 …………… 5
 電池の種類 …………… 13
 電波干渉…………… v、6
 電波状態…………… 2、7
 電波法…………… iv

は

バックライト…………… 13
 バッテリーパック…………… 3
 特性と寿命/膨らみ …………… xiii
 保管 …………… xii、4

パワーセーブ…………… 4、6、13

ひ

ビープ音量設定…………… 12
 秘話機能…………… 2、9

ふ

プライベートチャンネル…………… 1、12

へ

ペアリング…………… 16、21
 ベルトクリップ…………… 3

ほ

防塵/防水性能 …………… vi
 ポケットビープ…………… ii、12

ま

マイク…………… 7
 マイクゲイン…………… 12

め

メインチャンネル…………… 10

ゆ

ユーザーコード…………… 9

よ

呼出用チャンネル(呼出CH) …… 8

り

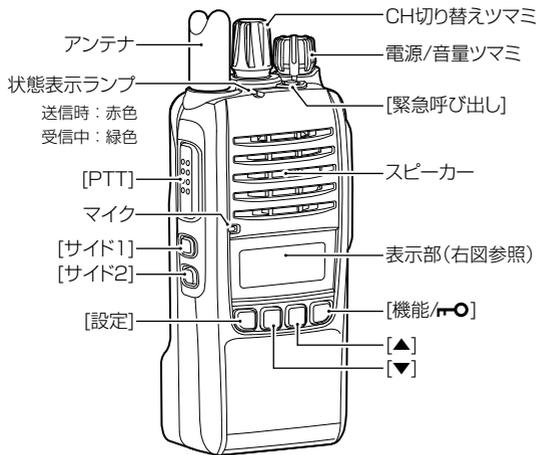
リセット…………… 13、19

ろ

ロック機能…………… 8、21

ご利用ガイド

各部の名称



表示部



※[設定]を長く(約1秒)押すごとに、送信出力(5W/1W)が切り替わります。

※[機能/ON/OFF]を長く(約1秒)押すごとに、ロック機能がON/OFFします。

基本操作

1. 電源を入れる

電源/音量ツマミを時計方向に回すと、電源が入ります。

※反時計方向に回すと、電源が切れます。

2. 通話チャンネルを合わせる

[▼]/[▲]を押して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。(例:CH05)

※CH切り替えツマミを回してもチャンネルを選択できません。

3. [PTT]を押しながら自分の声を送信する

他局が通信していないこと(状態表示ランプ：消灯)を確認後、[PTT]を押しながら、マイクに向かって呼びかけます。

4. [PTT]をはなして、相手の音声を受信する

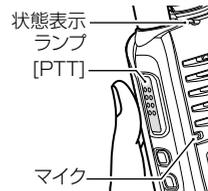
信号を受信すると、状態表示ランプが緑色に点灯して、受信している電波の強さ(目安)が4段階で表示されます。

5. 通話をつづける

応答するときは、待受状態(状態表示ランプ：消灯)になってから、[PTT]を押します。

※送信の終わりに「どうぞ」を付け加えると、互いの会話がスムーズになります。

電源/音量ツマミ



工場出荷時や全設定初期化時、電源を入れると、呼出用チャンネルの「CALL CH」*が表示されます。

このチャンネルは一時的な呼び出しにだけ使用しますので、呼び出した相手と通話をつづける場合は、空いている通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH82)に変更してから通話してください。

★本製品以外では、「呼出CH」や「CH15」と表示されるチャンネルです。

設定モードによる機能設定

運用状況に応じて、設定モードからお好みの設定に変更できます。

設定モードに移行するときは

1. 本製品の電源を切ります。
 2. [機能/**MODE**]を押しながら、電源/音量ツマミを回して、電源を入れます。
 - 「ピッ」と鳴って、「MODE CHG」が表示されます。
 3. [機能/**MODE**]から手をはなしたら、すぐに[機能/**MODE**]を短く押します。
 - 「ピピッ」と鳴って、「SET MODE」を表示したあと、設定モードの設定項目が表示されます。
- ※「MODE CHG」が表示されなかったときは、手順1から操作をやり直してください。

[機能/**MODE**]

ポケットビープ機能設定

設定内容を変更するときは

1. [機能/**MODE**]、または[設定]を押して、設定項目を選択します。
2. [▼]/[▲]を押して、設定を変更します。
 - ※ほかの機能も変更するときは、手順1と2の操作を繰り返します。
3. [PTT]を押すと、設定が確定されて、運用できる状態になります。
 - ※別売品を接続しているときは、その製品の[PTT]を押します。
 - ※[機能/**MODE**]、または[設定]を押して、設定項目を変更後、電源を切ると、設定値が確定されます。
 - ※設定モードを解除するまで通話できません。

設定項目と設定内容の表示について

EXTV：外部電源初期値

AT：AUTO

PLED：電源オンLED

RNB：虹色

画面に表示される文字一覧

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
[A]	[B]	[C]	[D]	[E]	[F]	[G]	[H]	[I]	[J]	[K]	[L]	[M]
N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z
[N]	[O]	[P]	[Q]	[R]	[S]	[T]	[U]	[V]	[W]	[X]	[Y]	[Z]
1	2	3	4	5	6	7	8	9	0			
[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	[9]	[0]			
+ --	R	↓										
[+]	[-]	[&]	[⇒]	[ドット]	[スペース]							

このガイドは、本製品をはじめとお使いになるかたの手に登録状が届いたあと、すぐに通話を開始するための手順として、基本的な操作をまとめたものです。

ご利用になる目的やエリアに応じて、ユーザーコード、秘話機能、個別呼び出し、サブチャンネルPTTなどの機能もご使用ください。(取扱説明書(PDFファイル)参照)

How the World Communicates

～コミュニケーションで世界をつなぐ～

A7786D-1J
Printed in Japan
© 2024 Icom Inc.

202402

アイコム株式会社

547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32